国臨協関信

H.P:http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/
パスワード：kansin

平成22年11月

事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
(独)国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者　田島紹吉
編集委員　渡司博幸・沼田正男・菅原恵子
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第38回 国臨協関信支部 学会 開催される

第38回関東信越地方支部学会の報告

国立病院臨床検査技師協会　関東信越地方支部　事務局長　峰　岸　正　明

去る９月４日、第38回関東信越地方支部学会が「必要とされる臨床検査技師を目指して」のテーマのもとに、新装成った国立国際医療研究センター病院において行われました。今学会は定期総会と分離後、初めての学会のみの単独開催となり例年とは異なった取組をいくつか行いました。①一般演題の受付申込を抄録提出時に変更。②抄録集の表紙をカラー化。③質疑時間を長く設定（3分）。④学会賞の一次選考にルーチンアドバイザーの協力を得ました。⑤支部ホームページに従前のＣＤ抄録と同様な内容の支部学会のページを作成し、施設へのＣＤ抄録配布を廃止させていただきました。⑥定期総会を分離したことで純粋に学会のみの開催とし懇親会を取りやめたことなどです。新執行部になって４ヶ月余りで学会開催となり、会員の皆様に周知されなかった点が多々あったことをお詫びいたします。

さて、一般演題は48題の発表を行い、日頃の研究成果が大いに発揮され活発な意見交換がありました。その後教育セミナー、業務改善セミナー、特別講演、セレモニーと進行いたしました。　教育セミナーでは「検査の基礎と"こつ"」として生理、細菌、輸血部門において、日当直時の業務を行ったとき役立つ内容を講演していただきました。また、業務改善セミナーでは「分析機器更新の方向性を探る」として４人の検査技師長より契約方法から機器選定までを講演していただき、今後の機器更新時の参考になったことと思います。特別講演では東京都臨床検査技師会会長の下田勝二先生より、「国際的な潮流の中で臨床検査室（検査技師）に求められるもの」として、第三者評価の取得が必要となっていることを判りやすく具体的に講演していただきました。関信の施設では取得施設が無く、取得施設が出ることを期待します。セレモニーでは加藤医療課長、奥田専門職、永井専門職、大貫会長、小林会長のご臨席のもと学術奨励賞、特別賞の発表を行いました。特別賞の該当者はいませんでしたが、奨励賞は国立成育医療研究センター　臨床検査部　中村良幸氏が受賞されました。

最後になりましたが、本学会の運営にご協力いただいた会員の皆様と、病院の引っ越しの大変な中を応援していただいた国立国際医療研究センター病院の中央検査部の職員の皆様には心より感謝申し上げます。

第38回国臨協関信支部学会・特別講演を聴講して

ＮＨＯ東埼玉病院　佐　藤　紀　之

平成22年９月４日(土)（独）国立国際医療研究センターにおいて第38回国臨協関信支部学会・特別講演が開催されました。講演は、社団法人東京都臨床検査技師協会会長であり、公益財団法人日本適合性認定協会部長補の下田勝二先生をお迎えし「国際的な潮流の中で臨床検査室(検査技師)に求められるもの」と題してご講演いただきました。

冒頭のご挨拶で、「本会場においてかなり多くの諸先輩方と久しぶりにお会い出来たことで、懐かしさからスタートさせていただきとても恐縮です。」とのお言葉から始まり、会場の雰囲気が和んだ印象を受けました。まず、第三者評価についてお話がありました。病院機能評価での効果と利点として、業務等を客観的に把握する事で改善のきっかけ造りになる。そして具体的な改善目標の設定を行い、職員の自覚と改善意欲の醸成があり、改善の方向性が明らかになってくる。実際に評価を取得することで患者さまの信頼を得ることができる。また、病院機能評価の認定を取得することで緩和ケア診療点数の加算が出来るので取得する施設が増えてきています。

次に国際的な標準化と展望について、ＩＳＯ15189による国際的な認定制度が国内で開始され、認定臨床検査室も56施設となった。オーストラリアではＩＳＯ15189の認定取得がないと臨床検査をしてはいけない現実がある。またアメリカは独自の認定であるＣＡＰがあるためＩＳＯの取得は少ない。それは臨床検査を行うには最低限の技術水準をクリアしなければならない。臨床検査室の能力を公平な検証が今求められていることが世界的な流れであると国際規格の中に記載されております。

まとめとして、「ＩＳＯ15189認定取得が決して高いハードルではなく、世界的には当たり前のことであり必要最低限のこと。むしろこれを知らないことが問題であり、あとは認定を取得するという決心だけです。」というお話で講演が終わりました。下田先生の講演はとても解りやすい内容で、会員の皆様もＩＳＯ15189について大分ご理解されたことと思います。この誌面をお借りして、ご多忙中の中ご講演いただきました下田勝二先生には心より感謝申し上げます。最後にこの企画をされました役員及び関係者の皆様ありがとうございました。

第38回国臨協関信支部学会　特別賞選考委員報告

ＮＨＯ宇都宮病院　松　林　　守

本年の学会賞選考委員は技師長会から内野理事、地区会を代表して新潟地区会 菅会長、神奈川地区会 近藤会長、そして関信支部から林副支部長、国臨協 松林の５名と、今年度初めての試みとして関信支部ＲＡ委員に協力を依頼し学会奨励賞・特別賞の選考を行った。ＲＡ委員による学会賞選考協力の経緯としては、学会賞選考方法について選考委員だけで全ての部門を審査するのは公平性に欠け、平等な審査ができないなどの問題点が指摘されていた。そこで、ＲＡ委員の協力を得ることが、公正かつ学術的に優れた演題を選考できるのでは無いかと支部に提案した結果、今年度ＲＡ委員による学会賞選考協力が実現した。今回の選考ではＲＡ委員の方々には、担当分野毎に独創性・新鮮さ・抄録の構成・臨床的有用性を含めた評価をお願いしたところ抄録内容の評価だけではなく、学術的な意見やアドバイス等の情報も頂くことが出来た。

今年度の学会賞選考は、ＲＡ委員の専門的評価と従来からの選考委員による選考方法の両方にて実施し、幅広い視野で評価する事が出来たのではないかと考える。

さて、本年度一般演題は48題で、内訳として一般検査部門２題・生化・免疫部門６題、輸血部門３題、生理部門13題、病理部門８題、微生物部門７題、診療支援・チーム医療に関わる演題は７題であった。

一次選考は選考基準である研究的要素、論文が他の学会で未発表のもの、他の施設においても参考になる内容であることなど、従来からの基準も考慮した。最終的に学術奨励賞候補として２席、学会特別賞候補３席まで絞り込み、最終選考にて発表態度・抄録の修正の有無・質疑での対応等の総合審査にて受賞を決定した。

学術奨励賞　　演題番号26席

「二次孔型心房中隔欠損症における心電図検査所見に関する分析」

（独）国立成育医療研究センター　臨床検査部
中　村　良　幸　技師

選考理由として、先天性疾患の解析としての臨床的有用性を高く評価した。また複数検査との対比が十分検討されており他学会への投稿寄稿としての価値も十分評価に値する内容であった。フロアーからの質疑に対して高い評価を得た。

関信支部の学会特別優秀賞は、平成19年度から学術的分野において学術奨励賞・他分野の発表は学会特別賞を設けるようになり４年目となる。今学会では、診療支援・業務支援・チーム医療としての報告が各分野から発表され、昨年度を上回る発表であった。今年の学会テーマである「必要とされる臨床検査技師を目指して」にふさわしい内容が多くの部門にて発表されていた。学会特別賞は、３席の候補の中から最終選考にて決定する予定であったが、選考委員の総意にて今回は学会特別賞を見送ることとした。その理由は、最終選考基準を重視した結果とご理解いただきたい。

最後に関信支部への要望としてＲＡ委員からの情報提供の中、抄録の構成について厳しい意見があった。関信支部として若手技師の育成と今後の発展に向け、研修会の充実は基より論文・抄録の書き方・スライド作成など本学会がさらに充実した内容となるように、新たな研修会の取り組み等をお願いしたい。また、今回学会選考を行う中、従来から用いられている選考基準について、今後は見直しが必要ではないかとの意見が出された。選考委員会での内容を報告することで、関信支部並びに次期選考委員にてご検討いただきたい。今後とも本学会が会員のスキルアップと、情報の交換の場として益々発展していくことを期待致します。

学術奨励賞を受賞して

（独）国立成育医療研究センター　中　村　良　幸

この度、第38回国臨協関信支部学会におきまして、学会学術奨励賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。

今回発表させていただいた演題は「二次孔型心房中隔欠損症における心電図検査所見に関する分析」です。このテーマを研究の題材としようとしたのは、一昨年の関信支部学会のセミナーで小児期疾患の心電図検査について担当させて頂いたことがきっかけでした。先天性心疾患と心電図波形との関係性を改めて勉強していく中で、教科書上だけでなく実際の日常検査ではどのような所見が得られるのかということに興味を持ったからです。二次孔型心房中隔欠損症では、欠損孔の存在による右心系容量負荷により血行動態に変化が生じることを主要因にとして心電図変化が発現されると考えられています。その心電図変化による検査所見の出現性と重症度および罹患期間との関連性について分析したのが今回の発表となりました。

今回受賞できましたのは、共同研究者の国立成育医療研究センター臨床検査部の皆様方をはじめ、今までの学会発表に際して多くのご指導とご協力を頂いた諸先輩方のお陰と心より感謝申し上げます。今後は、頂いた賞を励みに臨床検査技師として更なる技術研鑽をしていきたいと思っています。最後に、学会を開催するにあたりご尽力くださいました国臨協関信支部の皆様に感謝申し上げます。

教育セミナーを終えて

ＮＨＯ下総精神医療センター
山　崎　　剛

平成22年9月4日（土）第38回国臨協関信支部学会に於いて、教育セミナー「検査の基礎と"こつ"」が開催され、座長を務めさせて頂きました。

生理、細菌、輸血の３部門から、「緊急性を要する心電図の読み方」を埼玉病院・内田技師、「グラム染色のポイント」を下志津病院・後藤主任技師、「凝集観察の"こつ"と初心者にも必要な適合血選択の知識」を東京医療センター・深澤主任技師にご講演頂きました。

日当直業務等の慣れない業務では、自分の判断で業務を進めていかなければ成らず、不安に思う場面も多々あることと思います。検査技師の仕事は常に迅速性と正確性の両方が求められ、プレッシャーのかかる職種ですが、それをはね除けるだけの"自信"とは知識と経験の積み重ねに比例するものだと考えます。ご講演頂いた皆さんも初めは不安な気持ちを抱えながら業務に当たられた事と思いますが、その当時を思い出し、長年培われてきた検査のコツについてもお話し頂くようにお願いしました。

如何でしょうか。ご講演された方々のちょっとした"こつ"を自分の中に取り込み、不安な気持ちが自信に繋がったでしょうか。今回のセミナーが皆さんのモチベーションアップのきっかけになれば幸いです。

午前中の演題には、最先端の研究の成果を発表したものも多数見られましたが、一方でこうして検査の基礎を繰り返し学び、土台を固めて行くことも必要だと考えます。講演の中にもありましたが、"無知は罪"です。

最後にご講演頂いた講師の方々と、セミナーを企画し、このような機会を与えて下さった関信支部役員の皆様に心より感謝申し上げます。

教育セミナー
「生理、細菌、輸血部門」を聴講して

ＮＨＯ東京病院
高　橋　あゆ子

平成22年９月４日(土）第38回国臨協関信支部学会において開催された、教育セミナー「生理、細菌、輸血部門」に参加させていただきました。主に我々のような経験の浅い新人技師を対象に行われ、日当直業務において重要で、特に検査技師としての知識と技術を問われる部門についてお話していただきました。

心電図検査では、心電図の基礎から異常波形の判読とその対応について説明していただきました。実際に患者さんを目の前にしたとき、焦る事なく的確な結果を報告するために、必要な知識を身につけておくことが重要であると確認させられました。

細菌検査では、グラム染色とその鏡検のポイントを綺麗な写真のスライドとともにお話していただきました。私も細菌検査に不安を持つ者の一人ですがその有用性を知り、今後積極的にトレーニングに取り組んでいこうと感じました。

輸血検査では、凝集観察の方法や、直接クームス陽性例やＡＢＯ血液型ウラ・オモテ不一致時の輸血対応等をお話していただきました。経験が浅いからこそ日当直時の輸血検査には胃が痛くなるような緊張感を味わっています。判断を迷ってしまうような場合の知りたかった部分のお話が聞け、とても勉強になりました。

今回お話していただいた３部門とも丁寧に説明していただき、とても理解が深まりました。苦手と感じる分野も少なくはないですが、知識や技術を磨いていく上での足がかりとなるセミナーとなりました。

最後に、ご多忙の中講義していただきました先生方、また本セミナーを企画、開催してくださいました国臨協関信支部役員の皆様に深く感謝致します。

業務改善セミナーを終えて

ＮＨＯ西埼玉中央病院　宮　原　行　雄

臨床検査器機の更新では、何処の施設でも思うように進まず技師長を悩ませているのが現状と思います。今回、「分析器機更新の方向性を探る」と題して、①器機リースの再契約；日吾雅宜技師長（まつもと医療センター松本病院)、②従量課金方式；中島治技師長（横浜医療センター)、③ＦＭＳの現状と今後の展望；當銘良也技師長（神奈川病院)、④試薬リースから器機購入への変更；浅里功技師長（相模原病院）の４名の技師長さんへ講演をお願いしました。それぞれの施設で導入した方法について、どの様な契約内容なのか、契約に至った背景、導入後の成果、メリット・デメリットなどについて講演をお願いしましたが、限られた持ち時間の中でこれだけの内容をまとめるには演者の大変なご苦労があったと思います。

ＮＨＯの多くの施設が高額な検査器機や検査システムの予算計上が難しくなっている現状と、導入の背景にはその経済的な面だけでなく法的な問題もありました。どの施設にも共通することは、検査科のコンセプトをしっかりと立て、それに必要な方策や運営方針を明確にしていることでした。現状を認識し、何が不足していて何をしなければならないのかを明確にしています。収支面ではどの施設でも改良されています。器機を集約した結果、生理検査にあるいは研究支援や治験等に技師を振り向け、院内業務を拡大した施設もあり、一方では次の世代を作る技師教育の遅れなど数値では表せない問題点も明らかになりました。どの方法にも長所も欠点もあります。それぞれの施設の診療内容や施設規模を勘案し、検査科の果たすべき役割と目標をしっかりと立て充分検討した上で、その施設に合った方法を採用することが重要ではないでしょうか。検査科の運営基盤が安定化することで業務拡大やチーム医療参画への道も拡大されます。その施設にとって、なくてはならない検査科となります。

このセミナーが、器機整備を考える上でその一助になれば幸いです。最後に、講師の方々とセミナーを企画していただいた関信支部役員の方々に感謝申し上げます。

業務改善セミナーを聴講して

(独)国立成育医療研究センター　長　田　裕　次

平成22年９月４日（土）記録的な猛暑の続く中、第38回国臨協関信支部学会が開催され、業務改善セミナーにおいて4名の技師長（日吾雅宜氏・中島　治氏・當銘良也氏・浅里　功氏）より「分析器機更新の方向性を探る」と題してご講演をいただきました。各技師長の講演内容としては「機器リースの再契約」、「従量課金方式」、「ＦＭＳの状況報告と今後の展望、メリット・デメリット」、「試薬リースから機器購入へ変更」と各施設とも異なった機器導入形態をとり、独自の機器整備に取り組み、検査室の運営を最大限に活かす努力がうかがわれました。

国臨協本部で毎年実施されている施設アンケート調査の報告において年々ＦＭＳ、リース等の実施施設が増加傾向にあり、関信支部でも他支部より遅ればせながら同様に増加しています。独立行政法人化後は各施設で病院運営に関し、経済性が重要視され、検査機器の導入に際しては非常に厳しい現状に置かれてる。この状況下の中、検査機器の導入の際にどのような導入形態を選択するかは各施設の手腕が必要です。

今後において、検査機器導入の選択方法についてＦＭＳ・リース等の件数が幾らか増加した場合、検証する必要性があり、どのような条件下の場合、何を選択すればその施設にとって経営上のメリット等が期待出来るかを検討していただきたいと思います。

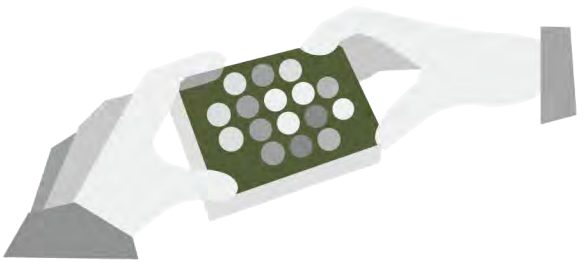
今回、時間の都合上ディスカッションするには至りませんでしたが継続してこの問題を取り上げ、今後の検査室運営に活用出来る方向性を示せれば良いかと考えます。

最後に、今回のセミナーを企画していただきました関信支部役員をはじめ、座長として取りまとめていただきました宮原行雄技師長に御礼申し上げます。

初めての学会発表を終えて

ＮＨＯ茨城東病院
大　槻　晋　也

９月４日（土）に初めての学会となる第38回国臨協関信支部学会において、「コバスTaq Man MTB・MAIアンプリミックス冷蔵保存による安定性の検討」というテーマで発表を行いました。抄録の段階では研究テーマから抄録内容等、先輩技師の方々からいろいろアドバイスをいただきました。その後、日常業務の経験を重ねていくうちに研究内容をより把握することができ、少しずつ自信を持てるようになりました。しかし、検査科内での学会に向けたリハーサルでは様々な質問が出てきて、それに対する回答がしっかりできず、勉強不足を痛感しました。当日は緊張しつつ、会場である国立国際医療研究センター病院に行きました。人が少ないうちに行って緊張感をほぐそうと早めに行ったつもりが、すでに会場にはたくさんの人たちが集まっていて余計に緊張感が高まってしまいました。そして、いよいよ発表が始まり、自分がまったくわからない分野から興味を引く分野と多様な発表を聞くことができたことは大変勉強になり、今後の自分に役に立てることができればと思いました。肝心の発表では思ったより緊張することもなく周りをよく見ながら発表できたのですが、質疑応答ではしどろもどろの回答になってしまい、自己採点では50点くらいの発表でした。その後は同期の人とも話すことができ、初めての学会は緊張感もありましたが、少しの楽しさも感じることができ、とても有意義でした。次回の発表には80点を目指して頑張りたいと思います。



地区会ポスターをみて

ＮＨＯ霞ヶ浦医療センター
大　澤　俊　之

第38回関信支部学会に参加し、各地区会ポスターを拝見させて頂きましたので思うがままに感想を述べさせて頂きます。まず、どの地区会ポスターも写真が多くカラフルで見やすく・読みやすく掲載さており楽しそうな雰囲気が見受けられました。

神奈川地区会のポスターでは納涼祭の様子が紹介されていました。他部署の関わりやコミュニケーションを得る貴重な場となっていることが良くわかり、積極的に参加することで職場の"輪"も広がると思いました。

長野地区会では、二つの理念がポスターに紹介されていました。一つは、"安全で質の高い臨床検査データを迅速かつ正確に患者に提供する"二つめは、"日々高度な臨床検査技術の習得に努力する"です。検査技師１人１人が意識し、行動することが大切であると感じました。

栃木地区会では研修会とレクリエーションの紹介が掲載されていました。今回初めて地区会に参加した会員に話を聞いたところ、たくさんの会員や医療従事者と交流を持つことができとても楽しかったと聞きました。施設間での交流は大変有意義であると感じました。

茨城地区会では、水戸医療センターのドクターヘリ運行開始が紹介されていました。大変緊張感の伝わる写真で、救命救急にかかわる重要さを痛感いたしました。同支部会員として多くの場面で活躍してほしいと思いました。

新潟地区会では新潟病院の"中越沖地震３年目エコノミークラス症候群フォローアップ検診"が紹介されていました。受診者は374名にのぼり今なお、沢山の方々が心を痛められている現状の一部を知ることができました。

地区会ごとに様々な特徴があり、研修会・勉強会に取り組んでいる様子がわかりました。私自身、地区会の皆様と今後も交流を深めコミュニケーションを保ち、検査の技術力、知識を向上させていきたいと思います。

スキルアップ研修を受講して

ＮＨＯ横浜医療センター
稲葉　孝

国立病院機構にて本年度のスキルアップ研修が9月に実施されこれを受講しました。この研修は中間管理職を対象とされ、管理業務の基本事項を修得し人材育成を目的とするものです。参加者は、薬剤、放射線、栄養、理学療法、療育、臨床検査と多職種に渡り、総員48名で２日間の講義と活発なグループワークを行ないました。初日には「職場管理者として必要なこと」の講義を職種の異なるそれぞれの職場長から伺いました。臨床検査部門からは、水戸医療センター中島技師長からの講義がありました。その後、各職種毎に専門職から問題提起によるグループ討議を行いました。組織の纏め役としてどう運用するかへのノウハウに議論が熱中し自己中心的な理想像の多くが見受けられました。然し、現在迄スタッフとして見て来た上司像は、どうであったのかと見方の角度を変えると求めていた上司のイメージ、人格、識見の優劣が具現され、顧みて自身はどうあるべきか職場のリーダーとして強い信念と教養と行動力をもってスタッフと共に歩まねばならない事を痛感しました。二日目は他職種と合同での討議を行い、たまたま楽天イーグルス監督が1年で解任されたことを例にし、いかに職場長は結果を求められているかを討議しました。目標に向かってのそれぞれの意志の統一、取組み方、研究心等々、他職種の人達も当面する障壁を如何に乗り越えるかを誠実に語りこの研修会で得た成果を稔りあるものとしたと思います。終わりに、お忙しい中を講義して下さった諸先生並びに研修会の開催にご尽力された皆様に感謝いたします。

臨床検査研究会に参加して

ＮＨＯ栃木病院
金子　司

７月31日（土）国立がん研究センター研究所セミナールームにおいて、平成22年度第１回（通算78回）臨床検査研究会が開催されました。

はじめに、関東信越ブロック事務所　永井臨床検査専門職より「ブロック事務所からの伝達事項」と題して報告がありました。①関信ブロックの財務状況、②平成21年度日本医師会精度管理調査報告、③新人登録選考制度、④今後の人事異動、⑤検査試薬の共同入札の効果、⑥新臨床検査統計の変更点についてお話しを頂きました。日常業務を行う上で有益な内容を傾聴することができました。

続いて、「臨床検査技師長となって考える副臨床検査技師長の役割」と題して、藤澤技師長（千葉東）と松林技師長（宇都宮）による講演がありました。お二人は自身のこれまでの経験をふまえ、部下の育成、管理職の適性、キャリアパス、職場運営、リーダーの役割、技師長になって思うことなど、様々な視点から本音で語って頂きました。講演を聴き「実践できることは直ぐにでも！」という思いに駆られました。経験者の言葉は意義深く、副技師長の役割について模範となる講演内容であったと思います。

研究会の最後は、３班に分かれグループディスカッションを行いました。私たちの班には「技師長の補佐役として」というテーマが与えられました。"補佐役＝役割"と考えますが、組織には人それぞれの役割があり、役割を遂行するには縦横のコミュニケーションが重要なポイントになると思います。常に良好なコミュニケーションが取れる上司と部下の関係が理想だと考えます。班の様々な意見は当班ファシリテーターの高橋副技師長（東京医療）と班発表の清水副技師長（宇都宮）にまとめて頂きました。

研究会終了後、場所を居酒屋に移し懇親会を行いました。初の研究会参加でしたが、自分の置かれた立場を再認識でき、また研究会に対する各会員の熱意を目の当たりにして自分自身もっと意欲的に行動しなければならないことを痛感しました。最後に、ご多忙の中、臨床検査研究会にご協力頂いた永井臨床検査専門職、藤澤技師長、松林技師長、そして研究会幹事の皆様に感謝申し上げます。

国際医療研究センター病院開院について

（独）国立国際医療研究センター　土　井　誠　一

４年をかけて建築していました新中央棟（地上16階、地下２階建）が７月に完成し、平成22年８月16日より運用を開始いたしました。５Ｆから16Ｆに病棟を備え、地下１Ｆに薬剤部や当直室、１Ｆには救急処置室、総合診療科、呼吸器内科・外科の診療科と初診・入院受付、支払窓口等のサービス機能が集約されています。２Ｆに放射線科、３Ｆに内視鏡、リハビリ、中央検査部、４ＦにＩＣＵ、手術室を備えており、総床面積66,000㎡（旧棟の1.7倍）、ベッド数801床で個室型多床室（４床）を基準としています。救急部門は１階の救急処置、７階の救急病棟30床を連携運用し、３次まで対応する「救急救命センター」を目指しています。

今後は旧中央棟を解体し、３年後に新外来棟が増設される予定です。

３階中央検査部は生理検査部門、病理部門、検体部門のエリアに分かれ、検体部門の中に輸血検査室、細菌検査室、生化・血液・免疫・一般のワンルームが構築されました。

また、電子カルテの更新による運用方針の見直し、部門システムの更新（細菌は除く）により、紙運用の煩雑さが軽減されています。広々とした検査部の設計、運用の構築にご尽力をいただいた方々にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

みなさんもご存知のように今年の４月より国立国際医療センターから独立行政法人に組織移行され、身分も非公務員型になりました。現在の所は新棟移転があり、あまり大きな変化がありませんが、これからは色々な面で変化が起こり検査部にも要望、改善等様々な事が求められていくことになると認識しています。それは決してマイナス面だけではなく、今までやりたくてもできなかった事がやれるかもしれないプラスの面が多々あると思っています。

検査部職員全員で、センターと病院の方針に沿った検査部運営のためにも機器整備、人員配置等を含めた運用を再検討し、今後の変化にも柔軟に対処でき、めりはりのある明るい検査部にしていきたいと思っております。

細胞診症例検討会に参加して

ＮＨＯ東京医療センター
佐　藤　和　美

国立がん研究センター中央病院において、毎月第三金曜日に「細胞診症例検討会」が開催されており、この検討会に参加する機会を得ましたので紹介いたします。

こちらの検討会は毎月三症例程、ディスカッション形式で行っています。参加者は初心者からベテランの方、資格取得を目指している方など様々で、国立病院機構だけではなく民間病院からも参加しており、他施設の様子を聞ける良い機会となっています。また、希少例だけでなく、普段目にする症例もあり、各個人が細胞をどのように観察し、考察しているのか解り、とても勉強になります。本検討会は、一症例毎の話し合いの時間を長く持ち、参加者の意見や質問などが気軽に発言出来る環境を諸先輩方が作ってくれています。また病理医師の参加もあり、組織学的所見など貴重な意見を聞く事が出来ます。検討会終了後には懇親会もあり、お酒を呑みながら語り合える楽しい一時となっています。

この検討会で学び得た知識を、今後の実践に活かして日々努力していきたいと思います。これからも検討会を通して多くの施設の方と知り合い、一緒に学べる事は細胞診を診断する上で大きな財産になっていくと思います。最後になりますが、ご多忙ながら毎月このような検討会を開催して下さっている、がん研究センター中央病院をはじめとする方々に深く感謝申し上げます。

細胞診症例検討会のご案内

（独）国立がん研究センター中央病院
佐々木　直　志

国立がん研究センター中央病院では、他施設と共同で月１回（原則として毎月第３金曜日）に細胞診症例検討会を開催しています。開催趣旨としては、現在細胞判定に苦慮している症例や他人の意見を聞きたい症例を気軽に意見交換できる場になればと思いおこなっています。

開催場所は国立がん研究センター中央病院を主に日本医科大学付属病院（千駄木）などで、時間は18時位から鏡検（症例が届き次第ですが…）し、19時位より検討会を行っています。参加してみたい方は、私もしくは当院の澁木技師へご連絡下さい。

国臨協関信支部主催研修会のご案内

第３回　研修会について

開催日時：平成22年12月11日（土）
場　　所：国立がん研究センター中央病院
　　研究棟　第１会議室
内　　容：「基本的な医学論文の書き方」

第４回　研修会について

開催日時：平成23年１月15日（土）
場　　所：大宮ソニックシティ
内　　容：超音波検査士認定試験対策セミナー

地区会だより

第29回国臨協関信支部　千葉地区会定期総会・研修会を終えて

ＮＨＯ千葉医療センター　千葉地区会 理事　長　島　恵　子

平成２２年７月３日(土)、梅雨空に紫陽花が満開に咲く中、平成21年度第29回国臨協関信支部千葉地区会定期総会・研修会がＮＨＯ千葉医療センターで開催されました。今年はＮＨＯ千葉医療センターが６月に新棟オープンされたので総会に先駆け、ＮＨＯ千葉医療センター永井技師長を始め検査科の皆さんのご協力の下、施設見学会も同時に開催され、見学者からはとても広く美しいとの意見が多数聞かれ、来年の人事異動には沢山のＮＨＯ千葉医療センターの希望が殺到するのではないかと思いました。

施設見学後、国臨協関信支部田島支部長、峰岸事務局長、永井臨床検査専門職のご出席の下総会は開催され、平成21年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成22年度事業方針案（文化活動・勉強会開催など）、会計予算案、新役員選出などが審議・承認され総会は終了しました。

平成22年度新役員

会　長	内野　厳治	（ＮＨＯ下総精神医療センター）
副会長	海原　桂一	（ＮＨＯ下志津病院）
理　事	田島　秀昭	（独立行政法人 国立国際医療研究センター 国府台病院）
	飯田　好江	（独立行政法人 国立がん研究センター 東病院）
	長島　恵子	（ＮＨＯ千葉医療センター）
	岡村　康子	（ＮＨＯ千葉東病院）
会計監査	土志田　健	（ＮＨＯ千葉医療センター）
	石井　幸雄	（独立行政法人 国立国際医療研究センター 国府台病院）
役員推薦委員長		
	山田　清春	（独立行政法人 国立がん研究センター 東病院）
	藤澤　紀良	（ＮＨＯ千葉東病院）

引き続いて永井臨床検査専門職の伝達講習では、事業仕分けによる国立病院機構の指摘事項、日本医師会精度管理調査報告と分析、登録選考試験の実状、認定資格調査、今後の研修計画・人材育成、試薬共同購入分析、試薬統一化など興味深い内容でした。

中でも人材育成の一環として、キャリアパス構築に向けた検討を行っているとの報告が有り、私達の更なる自己研鑽スキルアップの重要性を再認識致しました。

そして記念講演では慈生会 野村病院 院長補佐兼検査科科長 椎津　稔先生より「ＮＨＯから民間病院に移って」と題してご講演頂きました。

椎津先生は国立病院在職中に国立病院からＮＨＯ移行にあたり発想の転換により、ピンチをチャンスと捉え検査科体制の見直しによる病院経営の健全化の提案などを積極的に行い、病院全体の意識改革を推進されたこと、また民間病院に移られた後の検査科運営について実例を提示され、お話されたことは今後の検査業務においても参考になる講演でした。

最後に執り行われた懇親会では、多数の会員が親睦を深めたり、夏の暑さを吹き飛ばすかの様な大きな笑い声が数多く聞かれ、楽しい会となり終了しました。

第25回国臨協長野地区会総会・研修会を終えて

NHOまつもと医療センター中信松本病院　宮　澤　寿　幸

平成22年6月25日（土）、国立病院機構長野病院にて第25回国臨協長野地区会総会および研修会が行われました。当日は20名の参加者と来賓として田島関信支部長、北沢関信支部理事の出席を賜りました。

研修会では、シノテスト株式会社の嶋村先生より「生体内微量元素～亜鉛の有用性～」と題してご講演いただきました。生体と亜鉛の関連性、効果、および採血、測定時の注意点などについて学ぶことができました。また、NST, 褥瘡対策チームと亜鉛治療効果についての説明があり、改めて有効性を理解することができました。

総会では、田嶋支部長、北沢理事にご挨拶をいただき、国立病院機構の現状と今後の活動および国臨協ホームページなどについて分かり易くお話をいただきました。

今回より総会開催日が秋から初夏に変更となり新たな気持ちで再スタートとなりました平成21年度経過報告、平成22年度事業計画の活発な意見交換がなされ、承認されました。総会終了後、長野病院の展望レストランにて懇親会が開催され、お酒も入って会話も弾み、より団結力が高められたのではないかと思いました。

遠方よりご参加いただきました田島関信支部長、北沢理事、および会場設営にご尽力いただきました長野病院の皆様におかれましては、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

人／事／異／動

【平成22年９月30日付　辞職者】

氏　名	施設名	役職名
本　間　綾　子	がん研究センター中央病院	主任技師

【平成22年10月１日付　昇任者】

氏　名	旧施設名	旧役職名	新施設名	新役職名
大　竹　龍三郎	がん研究センター中央病院	臨床検査技師	がん研究センター中央病院	主任技師

編集後記

支部学会も終わりを告げると、あの夏の暑さはどこ吹く風のように少し肌寒い秋の様相になってきました。もうすぐ師走がやってきます、会員の皆様は今年1年いかがでしたでしょうか。来年も会員の皆様のご支援をいただきながら、会員の皆様のための紙面作りをしていきたいと思います。　（記：広報部・沼田）

訃　報

NHO宇都宮病院 臨床検査科 医化学主任　渡邊　出 様(48歳)におかれましては、入院加療中のところ10月1日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げるとともにご冥福をお祈り申し上げます。　国臨協関信支部